

マيسモールランド

無料
上映会

映画上映会 2023年8月26日(土)

開場 13:30 上映 14:00~16:00 解説 16:10~16:40

会場 日宝道修町ビル308号室 大阪府中央区道修町3-3-10

入場無料・事前申し込み制

- イベント終了後、18:00より同フロアー302号室にて有志による交流会を行います。
お申し込みの際に参加・不参加をお知らせください。
(参加費：1,500円、アルコールを飲む方は2,000円)
- 申込・お問い合わせ washida@darumajuku.com (担当：鷺田)

<あらすじ>

幼い頃から日本で育った17歳のクルド人・サーリヤ。
ある日、家族の難民申請が不認定となり、これまでの日常が一変する。
埼玉に住むサーリヤは、進学のため父に黙って始めたバイト先で出会った、
東京の高校に通う聡太と自由に会うこともできなくなる……。

ここに居たいと
願うことは
罪ですか？

© 2022 「マيسモールランド」製作委員会



主催：アムネスティ・インターナショナル日本 関西連絡会

AMNESTY
INTERNATIONAL



映画「マイスマールランド」について

日本に住む難民申請中のクルド人の家族に告げられた過酷な現実。在留資格を失い、普通の高校生としての日常が奪われてしまった17歳の主人公サーリヤが、理不尽な社会と向き合いながら、自分の居場所を探し、成長していく物語。2022年度のベルリン国際映画祭／アムネスティ国際映画賞《特別表彰》に輝いた。

主人公サーリヤを、5カ国のルーツを持ち、ViViモデルとして活躍する嵐莉菜が演じ、サーリヤが心を開く少年・聡太を注目の俳優・奥平大兼が演じる。是枝裕和監督率いる映像制作者集団「分福」の川和田恵真監督の長編デビュー作。『万引き家族』×『ドライブ・マイ・カー』のスタッフが贈る、国境を越え胸に響く感動作。（「マイスマールランド」オフィシャルサイトから引用）

人権から考える外国人の収容問題とは？

2021年3月、スリランカ国籍の女性が名古屋の入管施設で亡くなりました。1997年から、確認できるだけでも17人の外国人が日本の入管施設で亡くなっています。

もっとも多い死因は病死。入管施設では適切な医療が受けられません。次に多いのが自殺。長期収容は、収容されている人の精神をむしばみます。その他、ハンガーストライキによる餓死や、入管職員による暴行致死の疑いがあるケースもありました。

そんな入管施設に収容されているのは、日本の在留資格を失った外国人です。収容された人の99%は間もなく帰国しているのですが、理由があって帰国できない人たちもいます。

帰国できない理由は、子どもが日本で生まれ育った、自国の迫害から逃げてきた、自国への入国を拒否されているなどさまざま。入管施設は本来、送還するまでの間だけ一時的に収容するための場所です。にもかかわらず、帰国できずに収容されている外国人の約半分は、半年以上の長期に渡って収容されています。

最近ニュースでよく聞く、外国人の収容問題。実は20年以上も前からずっと、そこでは人権が守られていないと国連から批判されていました。その背景には、問題だらけの法律とその運用があります。

在留資格のない人は全員施設に収容するのが前提で、収容期限に上限はなく、収容に関する決定は、裁判所ではなく入管庁が行っている。

「身体的自由」を無期限に奪う権限を、司法ではなく、行政機関が持っているのです。

人権は、国籍や在留資格で差別されることなく守られるべきもの。入管庁などの国家機関が、好き勝手に自由を奪ってはいけない。これは世界人権宣言をはじめとする世界のルールです。（アムネスティ日本のHPから引用）

夏休みの高校生、大学生に是非見てほしい！！

今、夏休みの最中の高校生、大学生などの若い人たちに是非この映画を見てほしい。主人公サーリヤは、皆さんと同じ世代のクルド人の高校生。映画は私たちのすぐそばで起きていることを描いています。日頃私たちが知らない、あるいは気づかない、難民申請中の家族、日本における難民支援の問題に目を向けるきっかけになればと思います。

この「マイスマールランド」を家族で鑑賞していただき、同じ日本に暮らしながら、夢を持って苦しんでいる高校生がいることを知り、日本に暮らす外国の人々が安心して暮らすために私たちに何ができるかを家族で話あっていただけると嬉しいです。

会場はアムネスティ大阪事務所と同じビルです

大阪事務所 電話：06-6227-8991

